



# 昴の今日と明日Ⅱ

**No.62 May 7, 2014 (編集・発行)昴☆共生社会研究所**

## 各事業所長等の抱負(2)

### 常務理事を拝命して

ハロークリニック相談支援室室長 山崎晃史

4月1日より法人常務理事の役割を仰せつかりました。私としては、引き続きハロークリニック相談支援室をベースに地域の発達支援システムの適正な位置づけを図っていくつもりですが、当然ながらそれだけにとどまらずに、社会福祉法人昴の今後の進むべき道について自分なりに考え、理事長の舵取りを補佐する役割を果たしていく所存です。

その過程では、職員や当事者や地域の方々との議論を促進させることも役割のひとつだと考えています。今後、各事業所を回るつもりですので、その際はよろしくをお願いします。

そもそも私たちが目指すのは、人権およびノーマライゼーションの原理を根幹に据えながら、子どもから大人まで必要な支援がオーダーメイドで組み立てられる支援システムづくり、地域づくりです。

**Think globally, Act Locally!** (地球規模で思考して、身近な地域で行動しよう) の精神を忘れないで、日常業務の向こうにひろがる人類全体が抱える課題、社会のあり方(おおげさか?)をお互いにイメージしていきます。



### 西部・比企地域支援センター

丹羽彩文

今年度は、障害者総合支援法の定めにより、サービス利用者全員に対してサービス等利用計画作成の期限となるため、それが達成できるように関係機関と連携しつつ進めていく。比企郡内で障害福祉サービスを利用している方は約 1,200 名おり、平成 25 年度末現在の達成率は 45%程度である。とはいえ、利用計画を立てることが目的ではなく、必要とする全ての人に相談支援を届けることがこの取り組みの

最終的なゴールである。

そのため、比企郡 8 市町村から委託を受けている相談支援事業所としての我がセンターは、今後増えていこう各地の相談支援事業所がきちんと相談を受け、地域課題との連動が図れるよう、その底支えをするための地域の相談支援体制の要となる基幹相談支援センター設置への準備を各市町村と連携しながら進めていく。そのことをもって、この地域の相談支援体制の基盤を整備する 1 年としたい。

さらに児童期の相談支援について、現在の「障害者相談支援」という仕組みでは、相談をする親御さんにとって相当の覚悟と勇気を必要とするため、気軽で身近な相談窓口となるよう「子育てサロン」をいんくる堂の他、ケアホームあすく(嵐山町)でも開始する予定である。



### ワークショップ・チボリ 2014

町田尚広

ここ数年間は売上目標を 200 万円ずつ更新しており、昨年度は 1200 万円を目指したが初めて達成する事ができなかった。達成できなかった理由をしっかりと振り返りながら今後活かしていかなければならない。

毎日、早朝から遅くまでチボリで働くスタッフ全員の努力と気合なしには目標達成はなしえなかった。しかし、仕事は接客、製造、営業等様々な分野があり、専門性が高い内容ほど業務シェアが難しかった。そこで、今後は利用者さんを含め全スタッフで業務のシェアやサポートができる様に、まずは作業内容の標準化を行いたい。その中でそれぞれの仕事の楽しさ分かち合い、目標を共有する 1 年としていきたい。

又、利用者さんと共に若いスタッフが 1 年間続けてきた地域の清掃ボランティアも、最近では近隣の方々から暖かい声をかけてもらえるようになってきた。今年度も近所の方達と一緒に地域を綺麗にしていく工夫や発信をしていく事をめざす。